

# 雨の降るシーン大集合!!

◆このコーナーでは、数ある本の中にある「雨の降るシーン」を本の解説もつけて紹介!

『ドラゴンキーパー 最後の宮廷龍』著 キャロル・ウィルキンソン  
 「友情を教えてくれた龍とネズミ、その両方を失ったのだ。こみあげてきた涙が、顔を打つ雨とともに流れおちた。」  
 中国漢王朝最後の龍の卵を「なんととしてでも守らねばならない」と老龍は言った。奴隷の少女は逃亡の旅を続ける中、自分の役目を悟るようになる。ここに最後の龍守りが生まれる。  
 72期 M.I

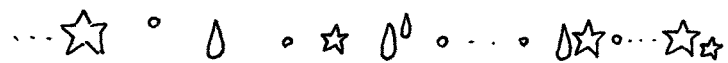
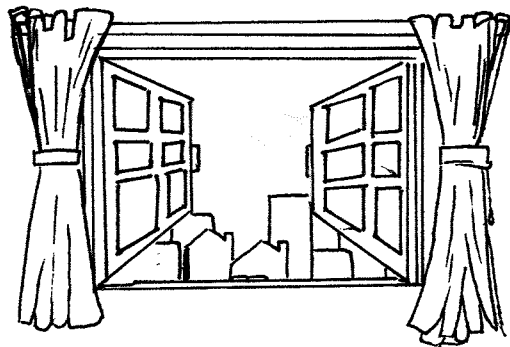
『小説 あらしのよるに』著 きむらゆういち  
 「じゃあ、オイラたちの合言葉は『嵐の夜に』ってことっすね」  
 ある嵐の夜に友達になったのはオオカミとヤギ、「喰うものと喰われるもの」の二匹だった…。  
 『あらしのよるに』を合言葉に秘密の友達となった二匹の種族を超えた友情物語。  
 73期 A.N

『IT 1』著 スティーブン・キング  
 「そもその発端は、私の知るかぎり、大雨で増水した道路の側溝を流れていった新聞紙の小舟だった。」  
 なにか恐ろしいことが、この街で起きている。この本は、底知れない恐怖と少年たちの成長を描くホラー小説です。少年たちが葛藤する姿に胸が熱くなります!  
 73期 R.N

『ハッピーバースデー』著 青木和雄 吉富多美  
 「連日の雨があすかの存在を溶かしていくようだった。」  
 母からの虐待で声を出せなくなってしまったあすかは、皆と助け合いながら声を取り戻すことができるのか?  
 何故母があすかを虐待してしまったかにも注目です。  
 74期 M.M

『晴れた日は図書館へいこう』著 緑川聖司  
 「雨粒が窓をたたき音を上げると、窓の外ではいつの間にか、雨が本格的に降りはじめていた。」  
 主人公、茅野しおりの通う図書館では本にまつわる変わった事件が起きている。  
 勝手に持ち出された本や水浸しになった本など、図書館の日常に潜む謎をめぐる物語。  
 75期 Y.A

『桜風堂ものがたり 上』著 村山早紀  
 「地下には魔法で灯された太陽が光っている。作り物の雲も浮かび、雨が降ったり虹が架かったりもする。」  
 本作は、とある県の「風早」という街で書店を営む主人公、月原一整の日常を描いた物語。  
 本を愛する人に是非読んでもらいたい心温まる一冊です。  
 76期 T.O



第150号図書館便り編集メンバー

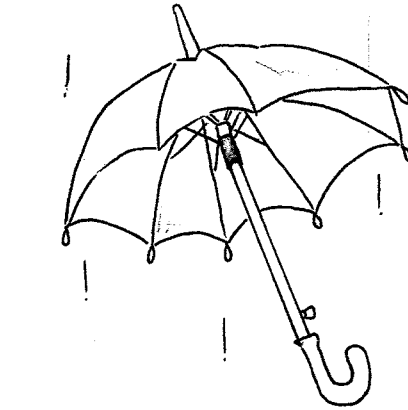
72期 M.I 73期 A.N/R.N (2・3面装飾)

74期 M.M 75期 Y.A 76期 T.O (1・4面装飾)

77期 N.A/Y.A



# 図書館便り 150号



梅雨に入り、放課後図書館で本を読んでいると、窓の外の雨音と紙のめくる音が耳によく残ります。雨音に包まれながら物語を読み進めると心が落ち着きます。  
 皆さんも是非試してみてはいかがでしょうか。

図書館便り編集長 73期 R.N

## イラストロジック

◆やり方◆

- ★数字の分だけマスぬる。
- ★数字と数字の間は、少なくとも1マス以上空ける。
- ★大きい数字からぬると解きやすい

